

す。被保険者当たりの受診者数が最も多かった10歳未満の慢性呼吸器疾患は受診者一人当たり点数は比較的低くなっていた。20歳代の悪性新生物は被保険者当たりの受診者数は比較的少なかったが、受診者一人当たりの点数は他の年齢階級と比較して高額となっていた。血友病等血液疾患、神経・筋疾患は10才未満の年齢階級を除き、いずれの年齢階級も1万点を超えており、被保険者当たりの受診者数は少ないものの、医療費が非常に高額な者が存在していることが明らかになった。

表6-1に2010年5月診療分の年齢階級別疾病大分類別受診者一人当たり点数(女)を示す。J呼吸器系の疾患は受診者が認められた疾病大分類の中での順位は男とは異なる者の、受診者一人当たり点数の値は男とはほぼ同じであった。受診者一人当たり点数が最も高い疾病は、10歳未満がD50-89血液および造血器の疾患ならびに免疫機構の障害、10~19歳がI循環器系の疾患、20~29歳がF精神および行動の障害、30-39歳がD50-89血液および造血器の疾患ならびに免疫機構の障害、40-49歳がF精神および行動の障害と、男とは異なる傾向であった。

低い方から見てA,B感染症および寄生虫症はいずれの年齢階級でも女の方が男より受診者一人当たりの点数は低く、G神経系の疾患についてはいずれの年齢階級でも女の方が男より受診者一人当たりの点数は高いなど、性別による違いが認められた。

表6-2に2010年5月診療分の年齢階級別11告示疾患群別受診者一人当たり点数(女)を示す。男と同様に10歳未満で被保険者当たりの患者数が最も多かった慢性呼吸器疾患の10歳未満の受診者一人当たり点数はそれほど高くなかった。被保険者当たりの受診者数の比較的小さい悪性新生物の10歳代、糖尿病の20歳

代で医療費が高額な状況が認められた。膠原病は10歳未満では膠原病と先天性代謝異常が他の年齢階級と比較して高額な医療費となっていた。

表7-1に2010年5月診療分の年齢階級別疾病大分類別受診者一人当たり点数(合計)を示す。10歳未満で被保険者当たりの患者数が最も多かったJ呼吸器系の疾患の受診者一人当たり点数はあまり高くないことはこれまでと同様であった。いずれの年齢階級もD50-89血液および造血器の疾患ならびに免疫機構の障害は受診者一人当たり点数が1万点を超えていた。I循環器系の疾患は40-49歳では若干低くなっていたものの、それ以外の年齢階級では受診者一人当たり点数が1万点を超えていた。M筋骨格系および結合組織の疾患は10歳未満の年齢階級でのみ一人当たり点数が1万点を超えていた。Q先天奇形、変形および染色体異常は10歳未満と40-49歳で一人当たり点数が1万点を超えるJまたはU字型といえる傾向であった。

表7-2に2010年5月診療分の年齢階級別11告示疾患群別受診者一人当たり点数(合計)を示す。これまでの男女別の集計と同様に、悪性新生物の10歳代では医療費が非常に高額となっていた。20歳以降のいわゆるキャリアオーバーに該当する年齢では血友病等血液疾患と神経・筋疾患は20歳以降でいずれも1万点を超えていた。

表8-1に年齢別疾病小分類別受診者数上位10位(男)を示す。いずれの年齢階級もJ459アレルギー性気管支炎が最も受診者の多い疾患であった。第2位以下の疾患は年齢によって異なっており、0~19歳では先天奇形や硬化性糸球体腎炎が多い傾向であった。20歳以上ではE780家族性高コレステロール血症(ヘテロ接合型、型不明も含む)やI499ペースメーカー

調律および I209 狭心症などの循環器疾患に関連する疾病が多い傾向となっていた。30 歳未満の年齢階級では第 2 位以下の疾病の患者数は 30 人未満であり、J459 アレルギー性気管支炎とは大きく異なっていた。また、年齢階級によっては、上位 10 位以内の疾病でも 10 人未満の場合が多くなっていた。

表 8-2 に年齢別疾病小分類別受診者数上位 10 位(女)を示す。いずれの年齢階級も J459 アレルギー性気管支炎が最も受診者の多い疾患であったことは男と同様であった。第 2 位の疾患は 10 歳未満を除く全ての年齢階級で E283 原発性性腺機能低下症(女)となっていた。その他、E039 甲状腺機能低下ミオパチー、D391 卵巣腫瘍、E221 高プロラクチン血症も上位 10 位以内に認められる傾向が高く、性別によって疾病の違いがあることが明らかであった。Q828 Bloom 症候群は 10 歳未満で 10 人未満、10-19 歳で 18 人、20-29 歳で 10 人、30-39 歳で 31 人と順位は高くないものの、常染色体劣性の遺伝病として無視できない人数であった。また、30-39 歳では 10 位以下だが(11 位) E722 アルギニノコハク酸尿症と E538 先天性葉酸吸収不全症がそれぞれ 17 人認められた。

表 8-3 に年齢別疾病小分類別受診者数上位 10 位(合計)を示す。いずれの年齢階級も J459 アレルギー性気管支炎が最も受診者の多い疾患であった。第 2 位以下の疾病は男女で認められた傾向が合計したことによってやや不明確になっていた。19 歳以下の年齢階級では第 2 位以下の疾病の受診者数はいずれも 50 人未満であり、疾病の分布が幅広くなっていた。

表 8-4 から表 8-8 に各年齢階級別の疾病小分類別受診者数上位 10 位以内の疾患について、性別に他の年齢階級別受診者数の推移を示す。10 歳未満で受診者数上位 10 位以内の疾

患の多くは年齢が高くなるにつれて受診者数が減少する傾向であった。しかし、E039 甲状腺機能低下ミオパチーについては年齢が高くなるにつれて受診者数が増加していた。Q210 右室二腔症や Q828 Bloom 症候群などの先天性疾患については年齢による変化は特に認められなかった。40~49 歳で受診者数上位 10 位以内の疾患の多くは 10 歳未満では症例無しの場合が多く、大半が成人以降の発症と考えられた。しかし、E039 甲状腺機能低下ミオパチーや I499 ペースメーカー調律は年齢が高くなるにつれて受診者数が増加しており、いわゆるキャリーオーバー患者も含まれると考えられた。その他の年齢階級もおおむね同様の傾向であり、M303 川崎病のように大半が 10 歳未満でのみ認められる疾患と E780 家族性高コレステロール血症(ヘテロ接合型、型不明も含む)のように年齢が高くなるにつれて増加する疾患が混在していた。

表 9-1 に年齢別疾病小分類別点数合計上位 10 位(男)を示す。10 歳未満、10~19 歳では受診者数の多い J459 アレルギー性気管支炎が第 1 位であった。以後 J459 アレルギー性気管支炎は年齢が高くなるにつれて順位が低下する傾向であり、20 歳以降では第 2 位から第 4 位となっていた。20 歳以降の年齢階級では I499 ペースメーカー調律と N189 慢性腎不全が上位に位置する傾向が認められた。

D66 血友病 A は 10-19 歳と 20-29 歳で上位に位置しており、また、M303 川崎病が 10 歳未満で第 2 位であったことなど、年齢によって疾病が異なっていた。また、患者数や被保険者当たりの患者数が多い疾患が必ずしも点数総額が高いとは限らなかった。

表 9-2 に疾病小分類別点数合計上位 10 位までの疾患(女)を示す。受診者数の多い J459 アレルギー性気管支炎が第 1 位であった年齢

階級は10歳未満、10～19歳、30～39歳と男よりもJ459アレルギー性気管支炎の順位が高くなる傾向が認められた。20歳以降の年齢階級ではI499ペースメーカー調律とN189慢性腎不全が上位に位置する傾向は男と同様であった。また、E039甲状腺機能低下ミオパチーは女性の方が男性よりもいずれの年齢階級でも上位に位置する傾向が認められた。その他、E221高プロラクチン血症、E283原発性性腺機能低下症(女)、D391卵巣腫瘍のように性別によって点数総額の高い疾病が異なる傾向は明らかであった。20歳未満の年齢階級とは疾病の種類が異なっていることも男と同様であった。

表9-3に疾病小分類別点数合計上位10位までの疾患(合計)を示す。0～29歳まではJ459アレルギー性気管支炎が第1位であり、30～49歳ではN189慢性腎不全が第1位であった。I499ペースメーカー調律は10～49歳で第2位、E039甲状腺機能低下ミオパチーは20～49歳で第4位であり、10歳未満とは異なる傾向であった。30歳以上ではE039甲状腺機能低下ミオパチーとE780家族性高コレステロール血症(ヘテロ接合型、型不明も含む)が高く、10～29歳ではD66血友病Aが上位に認められた。10歳未満では先天性心疾患の点数が比較的高く、10歳以上の年齢階級とは大きく異なる傾向であった。

表9-4から表9-8にかけて各年齢階級別の小分類別受診者点数合計上位10位以内の疾患について、性別に他の年齢階級別受診者数の推移を示す。M303川崎病は10歳未満にほとんどの医療費が発生しており、10歳以上ではごくわずかであった。E550ビタミンD依存性くる病やQ250動脈管開存症もほとんどの医療費が10歳未満で発生していた。しかし、D70遺伝性好中球減少症は10～19歳では若干

低下したものの30～49歳では10歳未満を超える医療費が発生していた。ほとんどの年齢階級で患者数の多いJ459アレルギー性気管支炎の医療費が上位に位置していた。10歳未満では症例が認められなかった疾病の医療費が、20歳以降において高くなる傾向があり、これらは成人以降の発症と考えられた。特に、40～49歳で第1位であったN189慢性腎不全は年齢階級が高くなるにつれて急激に増加していた。Q828 Bloom症候群は常染色体劣性の遺伝病であり、成人になって発症する疾病ではないが、年齢が高くなるにつれて発症する者の割合が非常に高いことが知られている。副傷病として何らかの癌が発症しているために医療費が高額になった可能性が考えられる。

表10-1に疾病小分類別受診者一人当たり点数上位10位までの疾患(男)を示す。10歳未満はN258家族性若年性ネフロン癆をはじめとする腎疾患やE752異染性白質ジストロフィーなどの先天代謝疾患、Q213ファロー四徴症などの先天性心疾患が受診者一人当たり点数で上位に位置する傾向が認められた。また、上位10位以内のいずれの疾患も5月単月分の受診者一人当たり点数は2万点を超えており、非常に高額な医療費を必要としていた。

10～19歳、20～29歳ではともに第1位はD66血友病Aであった。A811亜急性硬化性全脳炎は10～19歳で第3位、20～29歳で第9位であった。10～19歳では第9位、10位の疾患は5月単月分の受診者一人当たり点数は1万点未満であり、他の年齢階層と比較して非常に高額な医療費を必要とした者の割合は比較的小さいと考えられた。20～29歳のD66血友病Aは30～39歳で第6位、40～49歳で第3位であり、10～19歳、20～29歳よりは受診者一人当たりの点数は低いものの、依然として上位に位置していた。

A811 亜急性硬化性全脳炎は 30～39 歳の第 4 位であり、10～19 歳、20～29 歳と同様に上位に位置していることから、いわゆるキャリアオーバー患者の可能性が考えられた。その他にも、30～39 歳では先天性代謝異常である E720 イミノ酸異常症が第 2 位、40～49 歳では先天異常症候群である Q871 ヌーナン症候群が第 8 位に位置していた。

表 10-2 に疾病小分類別受診者一人当たり点数上位 10 位までの疾患（女）を示す。10 歳未満では男でそれぞれ第 2 位、8 位であった E752 異染性白質ジストロフィー、E550 ビタミン D 依存性くる病が第 1 位、第 4 位と男女に共通する疾患が存在していた。また、上位 10 位以内のいずれの疾患も 5 月単月分の受診者一人当たり点数は 2 万 5 千点を超えており、非常に高額な医療費を必要としていたことは男と同様であった。

10～19 歳では第 1 位の C719 鞍上部腫瘍は単月で 20 万点以上と非常に高額となっていた。男と同様に、9 位及び 10 位の疾患は月 2 万点を下回っており、他の年齢階級と比較して非常に高額な医療費を必要とした者の割合は比較的小さいと考えられた。男と女で共通する疾患は上位 10 位以内には認められなかった。

20～29 歳では上位 10 位以内のいずれの疾患も 5 月単月分の受診者一人当たり点数は 3 万点を超えていたが、男よりは低い値であった。A811 亜急性硬化性全脳炎は第 8 位と男女で共通して上位 10 位以内に認められた。Q871 ヌーナン症候群が第 6 位であった。

30～39 歳では B24 エイズが男女とも共通に上位 10 位以内に認められた。男よりも遺伝性の疾患が上位 10 位以内に位置する傾向が強かった。40～49 歳では上位 10 位以内の疾患に男と共通するものは認められなかった。N180 移植腎が第 3 位、N189 慢性腎不全が第 6 位と

腎臓関連の疾患が上位に位置する傾向であった。

表 10-3 に疾病小分類別受診者一人当たり点数上位 10 位までの疾患（合計）を示す。年齢によって上位 10 位以内の疾患が変化することはこれまでと同様であった。男のみで上位 10 位以内であった D66 血友病 A は 10～19 歳、20～29 歳、30～39 歳で上位 10 位以内に認められ、20 歳以上でも高額な医療費を継続して必要としていると考えられた。同様に E880 アルファ 1-アンチトリプシン欠乏症は 10 歳未満と 30～39 歳で上位 10 位以内に認められた。E271 アジソン病及び N251 抗利尿ホルモン不応症は 30～39 歳と 40～49 歳では上位 10 位以内であったが、29 歳以下の年齢階級では上位 10 位以内には認められなかった。

表 10-4 から表 10-8 にかけて各年齢階級別の疾病小分類別受診者一人当たり点数の上位 10 位以内の疾患について、性別に他の年齢階級別受診者数の推移を示す。いずれの年齢階級でも上位に位置する疾患の大半はそれ以外の年齢階級では受診者そのものが認められなかった。10 歳未満の年齢階級で男の D693 血小板減少性紫斑病は受診者一人当たりの医療費は低下するものの、40～49 歳でも認められた。また、D70 遺伝性好中球減少症も 10 歳未満の年齢階級が最も受診者一人当たり点数は高額であるものの、いずれの年齢階級でも受診者は認められた。また、男の D66 血友病 A は 10 歳未満の年齢階級は 358 点と受診者一人当たりの医療費が比較的低い状況であったが、10 歳以上ではいずれの年齢階級でも男では受診者一人当たりの医療費が上位に位置していた。

D. 考察

本研究によって、いわゆるキャリアオーバー患

者といわれる 20 歳以上の小慢による受診状況の一部を明らかにすることができた。疾病の種類によっては、20 歳以降も継続して高額な医療費を必要とする状態にある者が一定数存在していることが明らかになった。

従来の小慢に関する調査は大学病院など、小慢を診療しているであろうと仮定した医療機関の特定の診療科に対して受診患者数などの調査票を送付するという形式か、小慢の申請書などを分析する形式で実施されていた。医療機関宛に対する調査では、医療機関の負担が無視できず、一部の医療機関のみから調査に協力が得られることとなり、国全体または特定の集団を対象における全数を把握することは不可能である。また、小慢の申請書による調査は 20 歳以上の者は本制度による公費負担が行われないために、小慢に該当する疾病を有する 20 歳以上の患者の実態を把握することは不可能であった。今回の調査は、保険診療であれば医療機関の届出に影響されることなく情報を得ることを可能にした点において、従来の調査の問題点を克服している。また、20 歳以上の者についても 19 歳以下の者と同様の情報を得ることを可能にしており、この点でも従来の小慢に関する調査では解明できなかった 20 歳以上のいわゆるキャリアオーバー患者の実態を把握した点でも注目に値する。さらに、小慢には非常に多くの疾病が該当しており、これらの全てについて医療機関に対して調査票を用いた調査を行った場合、調査に回答する医師は全ての疾患について対応していることは希である。通常は、専門分野の範囲内で一部の疾病に対応しているため、必ずしも全ての小慢に該当する疾患を有する患者の情報を漏れなく回答することは困難である。

本研究は電子化されたレセプトに記載された傷病名の全てを検索して網羅的に調査を実

施したことで、従来の調査より漏れの少ない結果を得ることができた。また、何らかの事情で ICD10 に対応付けされなかったいわゆる未コード化傷病名（コード:0000999）についても対応する自由記載欄に示されたテキストから傷病名を ICD10 に沿って分類しており、非常に多くの疾病が該当する小慢の状況をほぼ網羅していると考えられる。

疾病分類については、ICD10 の疾患小分類に沿って対象レセプトを抽出した後、疾患群毎に集計する上では ICD10 大分類と小慢の 11 告示疾患群の 2 種類を用いた。2 種類の分類を用いる場合の注意点として、カサバツハ・メリット症候群のように小慢の 11 告示疾患群では血友病等血液疾患に分類されるが、ICD10 の大分類では新生物（ICD10 の疾患小分類コードは D18;C で始まるもの全てと D1~48 が新生物）に該当し、ICD10 大分類と小慢の 11 告示疾患群で異なるカテゴリに分類される疾患が存在する。なお、恩賜財団母子愛育会（事業管理部）による「小児慢性特定疾患早見表（登録管理用）平成 19 年度版」においては対象疾患ごとに ICD10 の疾患小分類コードが示されており、個別の疾患を把握する上での問題は存在しない。ICD10 大分類は人口動態統計や患者調査などで一般的かつ国際的に用いられており、関連する統計や諸外国との比較を行う場合に適している。小慢の 11 告示疾患群はよりわが国の小慢の臨床像に近い分類を行う場合に適していると考えられる。分析の目的に応じた適切な集計法を選択することで、より実態に即した結果を得ることが可能になる。

本研究は 2010 年 5 月診療分の電子化されたレセプトに記載された情報に基づくものであり、対象者が実際に小慢で医療費公費助成の対象であったかの確認は不可能である。小慢の判定はレセプトに記載された傷病名のみを用い

ており、糖尿病のように20歳以降になって新たに発症した疾病が含まれている。また、小慢の対象には重症度が勘案される疾病もあり、特にJ459アレルギー性気管支炎の多くは、実際には公費助成の対象外の可能性が高い。さらに、複数の傷病名で受診している場合は考慮されておらず、一部の遺伝性疾患のように心奇形などの疾病を併発する状況は十分考慮されていない。しかしながら、D66血友病Aなど、一度確定診断が行われれば、以後は長期間にわたって治療が継続すると考えられる疾患については、レセプトに記載される情報のみを用いて20歳以降の受診状況や医療費の実態を把握することに大きな問題は生じない。

重症度に関する診断基準が小慢の認定に採用されている疾患については、入院日数や行われた診療行為を考慮することによって、一定の範囲で統一することが可能になると考えられる。傷病名以外の情報を用いて小慢に該当する疾病の実態をより詳細に分析することは今後の課題である。

今回は疑い病名に対する考慮は行っていない。今回の調査の目的は20歳以降のいわゆるキャリアオーバー患者の実態を把握することであり、多くの遺伝性疾患のように、幼少期に確定診断が行われていると考えられる疾患を対象としている。20歳以上では既に確定診断が行われていると考えられ、疑い病名の影響を無視しても大きな影響はない。小慢に該当する傷病名が複数記載されたレセプトや疑い病名に関する分析をどのように行うかは、今後の課題である。

本研究は電子化されたレセプトのみを用いており、いわゆる紙媒体のレセプトは分析対象ではない。もっとも、小慢対象疾患のほとんどは大学病院など高度医療に対応した医療機関で治療されると考えられ、電子カルテやレセプ

トコンピュータがまったく導入されていない医療機関で小慢に該当する傷病名の患者が受診することはごく希であり、電子化されたレセプトのみを分析に用いたことによる問題は存在しない。

本研究はK県の国保被保険者のみを対象とした。我が国の国民皆保険制度では健康保険でカバーされる診療行為の内容は加入する保険によらず一律であるため、電子化されたレセプトの情報は被用者保険と同一である。しかし、被用者保険と国民健康保険加入者においては就労状況や所得構造が異なっている。特に国保は疾病によって就労不可能となった者が被用者保険を脱退した後に加入する場合があり、失業のために保険料そのものや自己負担分の支払いが困難な状況など、受診行動が被用者保険と異なる可能性がある。また、小慢の各疾患は非常に専門性が強く、特定の医療機関に全国から患者が集中している可能性も存在する。分析の対象を被用者保険やK県以外の地域に拡大することでより小慢のいわゆるキャリアオーバー患者の実態を明らかにすることが可能となる。今後、レセプトナショナルデータベースを用いた分析が行われれば、全国レベルで小慢の医療費公費助成の実態を明らかにすることができるため、より適正な公費助成を実施する上での根拠を入手することが可能となる。

E. 結論

小慢で医療費の公費助成を受けていたと考えられる疾病として、血友病等血液疾患等は20歳以降も継続して受診し、疾患によっては月3万点から20万点（医療費月額（10割）で30万円から200万円、自己負担は高額療養費制度による上限あり）という非常に高額な医療費が必要とされている実態が明らかになった。具体的には、男ではD66血友病Aや

D682 安定因子欠乏症の先天性の血液疾患が患者一人当たり月 200 万円弱の非常に高額な医療費となっていた。女では E162 特発性低血糖症や E880 アルファ 1-アンチトリプシン欠乏症などの内分泌・代謝疾患が患者一人当たり月 100 万円弱の非常に高額な医療費となっていた。また、全体では Q871 ヌーナン症候群などの先天性疾患が 40~49 歳でも月 50 万円以上の医療費となっていたことも明らかになった。

レセプトは特定の仮説に基づいた調査を実施するための調査票ではないが、小慢のように希少な疾患であっても医療機関からの届出に依存せずに把握が可能であることや医療費そのものについて直接の情報源として利用可能など、従来の調査では得られない有益な側面を有する。20 歳以上の新規発症者の情報を排除できないなどの課題はあるが、一部の疾患については、日本全体でのレセプトで把握することで、キャリアオーバー患者の実態を明らかにすることが可能になると考えられる。

F. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

なし

G. 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む)

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし

表1 2010年4月1日時点の性・年齢階級別被保険者数（50歳未満）

年齢階級	男	(%)	女	(%)	合計	(%)
0-9	18149	51.1%	17353	48.9%	35502	100.0%
10-19	22754	51.3%	21598	48.7%	44352	100.0%
20-29	25421	50.7%	24725	49.3%	50146	100.0%
30-39	29531	53.4%	25734	46.6%	55265	100.0%
40-49	29717	52.1%	27278	47.9%	56995	100.0%

表 2-1 2010 年 5 月診療分の年齢階級別被保険者 10 万人当たり小慢対象疾患を含む疾病大分類の受診者数 (男)

ICD10	傷病名	10 未満	10 代	20 代	30 代	40 代
A,B	感染症および寄生虫症	5.5	35.2	15.7	33.9	23.6
C,D48	新生物	33.1	22.0	23.6	47.4	235.6
D50-89	血液および造血器の疾患ならびに 免疫機構の障害	93.7	65.9	51.1	91.4	131.2
E	内分泌,栄養および代謝疾患	517.9	329.6	275.4	751.8	1998.9
E00-07,15-35	内分泌障害 (再掲)	270.0	206.6	110.1	237.0	403.8
E10-14	糖尿病 (再掲)	0.0	8.8	55.1	132.1	487.9
E40-90	代謝障害 (再掲)	247.9	114.3	110.1	382.6	1107.1
F	精神および行動の障害	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
G	神経系の疾患	60.6	39.6	47.2	199.8	185.1
I	循環器系の疾患	99.2	123.1	204.6	606.1	1558.0
J	呼吸器系の疾患	11030.9	1924.9	578.3	900.7	888.4
K	消化器系の疾患	11.0	0.0	11.8	20.3	37.0
L	皮膚および皮下組織の疾患	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
M	筋骨格系および結合組織の疾患	148.8	4.4	7.9	10.2	20.2
N	尿路性器系の疾患	187.3	193.4	149.5	298.0	676.4
P	周産期に発生した病態	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
Q	先天奇形,変形および染色体異常	319.6	101.1	62.9	121.9	198.5
S,T	損傷,中毒およびその他の外因の影 響	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

注：H00-59 (眼および付属器の疾患)、H60-95 (耳および乳様突起の疾患)、O (妊娠,分娩および産じょく<褥>)、R (症状,徴候および異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの)、V,X,Y (傷病および死亡の外因)、Z (健康状態に影響をおよぼす要因および保健サービスの利用)、U (特殊目的用コード) に該当する疾病は認められなかった。

表 2-2 2010 年 5 月診療分の年齢階級別被保険者 10 万人当たり 11 告示疾患群別に分類した場合の受診者数 (男)

告示疾患群	傷病名	10 未満	10 代	20 代	30 代	40 代
1	悪性新生物	16.5	8.8	7.9	23.7	158.2
2	慢性腎疾患	231.4	215.3	153.4	325.1	737.0
3	慢性呼吸器疾患	11075.0	1942.5	609.7	1093.8	1073.5
4	慢性心疾患	297.5	158.2	232.1	633.2	1591.7
5	内分泌疾患	270.0	228.5	125.9	250.6	437.5
6	膠原病	154.3	4.4	7.9	23.7	23.6
7	糖尿病	0.0	8.8	55.1	132.1	487.9
8	先天性代謝異常	209.4	96.7	106.2	372.5	1100.4
9	血友病等血液疾患	220.4	136.2	90.5	203.2	299.5
10	神経・筋疾患	22.0	30.8	23.6	13.5	10.1
11	慢性消化器疾患	11.0	8.8	15.7	10.2	33.7

注：10 歳未満の 7:糖尿病に該当する疾病は認められなかった。(レセプトに複数の小慢対象疾患名が記載されている場合は、主傷病を記載 (主傷病が複数存在する場合は先頭に近い位置に記載されているものを選択したため、慢性腎疾患等に計上される場合がある。)

表 3-1 2010 年 5 月診療分の年齢階級別被保険者 10 万人当たり小慢対象疾患を含む疾病大分類別受診者数 (女)

ICD10	傷病名	10 未満	10 代	20 代	30 代	40 代
A,B	感染症および寄生虫症	0.0	18.5	12.1	7.8	18.3
C,D48	新生物	51.9	74.1	331.6	563.5	645.2
D50-89	血液および造血器の疾患ならびに免疫機構の障害	149.8	78.7	56.6	136.0	168.6
E	内分泌,栄養および代謝疾患	507.1	476.9	1249.7	2354.9	2888.8
E00-07,15-35	内分泌障害 (再掲)	316.9	402.8	1140.5	1911.9	1873.3
E10-14	糖尿病 (再掲)	11.5	18.5	24.3	101.0	172.3
E40-90	代謝障害 (再掲)	178.6	55.6	84.9	342.0	843.2
F	精神および行動の障害	0.0	0.0	8.1	0.0	11.0
G	神経系の疾患	51.9	13.9	24.3	35.0	58.7
I	循環器系の疾患	109.5	162.1	186.0	450.8	1004.5
J	呼吸器系の疾患	9191.5	1467.7	772.5	1367.8	1382.1
K	消化器系の疾患	0.0	0.0	4.0	0.0	18.3
L	皮膚および皮下組織の疾患	0.0	0.0	4.0	0.0	0.0
M	筋骨格系および結合組織の疾患	51.9	4.6	40.4	77.7	117.3
N	尿路性器系の疾患	167.1	189.8	105.2	209.8	465.6
P	周産期に発生した病態	5.8	0.0	0.0	0.0	0.0
Q	先天奇形,変形および染色体異常	259.3	138.9	84.9	202.1	198.0
S,T	損傷,中毒およびその他の外因の影響	5.8	0.0	0.0	7.8	18.3

注：H00-59 (眼および付属器の疾患)、H60-95 (耳および乳様突起の疾患)、O (妊娠,分娩および産じょく<褥>)、R (症状,徴候および異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの)、V,X,Y (傷病および死亡の外因)、Z (健康状態に影響をおよぼす要因および保健サービスの利用)、U (特殊目的用コード) に該当する疾病は認められなかった。

表 3-2 2010 年 5 月診療分の年齢階級別被保険者 10 万人当たり 11 告示疾患群別に分類した場合の小児慢性特定疾患受診者数 (女)

告示疾患群	傷病名	10 未満	10 代	20 代	30 代	40 代
1	悪性新生物	5.8	18.5	48.5	147.7	242.0
2	慢性腎疾患	207.5	208.4	125.4	256.5	491.2
3	慢性呼吸器疾患	9208.8	1477.0	776.5	1383.4	1429.7
4	慢性心疾患	299.7	199.1	206.3	481.9	1030.1
5	内分泌疾患	334.2	439.9	1407.5	2300.5	2217.9
6	膠原病	51.9	4.6	40.4	73.8	124.6
7	糖尿病	11.5	18.5	24.3	101.0	172.3
8	先天性代謝異常	155.6	41.7	84.9	349.7	854.2
9	血友病等血液疾患	230.5	194.5	121.3	299.2	384.9
10	神経・筋疾患	40.3	13.9	36.4	19.4	29.3
11	慢性消化器疾患	5.8	9.3	8.1	0.0	18.3

注：30 代の 11:慢性消化器疾患に該当する疾病は認められなかった。

表4 2010年5月診療分の年齢階級別被保険者10万人当たり小慢対象疾患を含む疾病大分類別受診者数(合計)

ICD10	傷病名	10未満	10代	20代	30代	40代
A,B	感染症および寄生虫症	2.8	27.1	14.0	21.7	21.1
C,D48	新生物	42.3	47.3	175.5	287.7	431.6
D50-89	血液および造血器の疾患ならびに免疫機構の障害	121.1	72.2	53.8	112.2	149.1
E	内分泌,栄養および代謝疾患	512.6	401.3	755.8	1498.2	2424.8
E00-07,15-35	内分泌障害(再掲)	292.9	302.1	618.2	1016.9	1107.1
E10-14	糖尿病(再掲)	5.6	13.5	39.9	117.6	336.9
E40-90	代謝障害(再掲)	214.1	85.7	97.7	363.7	980.8
F	精神および行動の障害	0.0	0.0	4.0	0.0	5.3
G	神経系の疾患	56.3	27.1	35.9	123.0	124.6
I	循環器系の疾患	104.2	142.0	195.4	533.8	1293.1
J	呼吸器系の疾患	10131.8	1702.3	674.0	1118.2	1124.7
K	消化器系の疾患	5.6	0.0	8.0	10.9	28.1
L	皮膚および皮下組織の疾患	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0
M	筋骨格系および結合組織の疾患	101.4	4.5	23.9	41.6	66.7
N	尿路性器系の疾患	177.5	191.6	127.6	256.9	575.5
P	周産期に発生した病態	2.8	0.0	0.0	0.0	0.0
Q	先天奇形,変形および染色体異常	290.1	119.5	73.8	159.2	198.3
S,T	損傷,中毒およびその他の外因の影響	2.8	0.0	0.0	3.6	8.8

注: H00-59(眼および付属器の疾患)、H60-95(耳および乳様突起の疾患)、O(妊娠,分娩および産じょく<褥>)、R(症状,徴候および異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの)、V,X,Y(傷病および死亡の外因)、Z(健康状態に影響をおよぼす要因および保健サービスの利用)、U(特殊目的用コード)に該当する疾病は認められなかった。

表4-2 2010年5月診療分の年齢階級別被保険者10万人当たり11告示疾患群別に分類した場合の小児慢性特定疾患受診者数(合計)

告示疾患群	傷病名	10未満	10代	20代	30代	40代
1	悪性新生物	11.3	13.5	27.9	81.4	198.3
2	慢性腎疾患	219.7	211.9	139.6	293.1	619.4
3	慢性呼吸器疾患	10162.8	1715.8	692.0	1228.6	1244.0
4	慢性心疾患	298.6	178.1	219.4	562.7	1322.9
5	内分泌疾患	301.4	331.4	757.8	1205.1	1289.6
6	膠原病	104.2	4.5	23.9	47.0	71.9
7	糖尿病	5.6	13.5	39.9	117.6	336.9
8	先天性代謝異常	183.1	69.9	95.7	361.9	982.5
9	血友病等血液疾患	225.3	164.6	105.7	247.9	340.4
10	神経・筋疾患	31.0	22.5	29.9	16.3	19.3
11	慢性消化器疾患	8.5	9.0	12.0	5.4	26.3

表 5-1 2010 年 5 月診療分の年齢階級別小慢対象疾患を含む疾病大分類別受診者一人当たり点数 (男)

ICD10	傷病名	10 未満	10 代	20 代	30 代	40 代
A,B	感染症および寄生虫症	560.0	9643.9	35883.5	39308.3	17588.0
C,D48	新生物	1713.7	1341.6	37561.0	4203.8	14332.3
D50-89	血液および造血器の疾患ならびに免疫機構の障害	5244.1	31540.3	51226.2	8054.0	17621.7
E	内分泌,栄養および代謝疾患	9754.8	3557.7	11024.9	8071.7	7713.8
E00-07,15-35	内分泌障害 (再掲)	6226.2	4722.9	17458.3	9673.6	7383.1
E10-14	糖尿病 (再掲)	-	1902.5	7325.1	5237.6	14178.7
E40-90	代謝障害 (再掲)	13597.0	1578.6	6441.5	8057.5	4985.2
F	精神および行動の障害	-	-	-	-	-
G	神経系の疾患	6302.5	6133.7	15934.5	5764.6	4932.0
I	循環器系の疾患	17606.7	5985.0	24086.4	15170.1	8134.2
J	呼吸器系の疾患	1088.0	1205.5	3562.0	1713.2	5160.9
K	消化器系の疾患	561.0	-	1683.0	13570.3	12098.1
L	皮膚および皮下組織の疾患	-	-	-	-	-
M	筋骨格系および結合組織の疾患	14462.6	779.0	1453.0	4945.7	605.5
N	尿路器系の疾患	14944.8	1648.4	14895.3	17776.8	23515.2
P	周産期に発生した病態	-	-	-	-	-
Q	先天奇形,変形および染色体異常	9039.1	4466.2	9955.9	15220.1	11647.3
S,T	損傷,中毒およびその他の外因の影響	-	-	-	-	-

注：10 歳未満の E10-14:糖尿病 (再掲) に該当する疾病は認められなかった。

H00-59 (眼および付属器の疾患)、H60-95 (耳および乳様突起の疾患)、O (妊娠,分娩および産じょく<褥>)、R (症状,徴候および異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの)、V,X,Y (傷病および死亡の外因)、Z (健康状態に影響をおよぼす要因および保健サービスの利用)、U (特殊目的用コード) に該当する疾病は認められなかった。

表 5-2 2010 年 5 月診療分の年齢階級別 11 告示疾患群別に分類した場合の受診者一人当たり点数 (男)

告示疾患群	傷病名	10 未満	10 代	20 代	30 代	40 代
1	悪性新生物	2784.0	402.5	39619.5	7377.3	16949.0
2	慢性腎疾患	12567.9	2374.9	14538.3	15891.6	22118.8
3	慢性呼吸器疾患	1115.2	1209.5	3454.4	2279.4	4965.7
4	慢性心疾患	15120.1	5384.7	22137.4	15882.1	8015.2
5	内分泌疾患	6226.2	4428.7	15367.3	9964.3	8813.0
6	膠原病	13952.5	779.0	1453.0	7913.9	696.1
7	糖尿病	-	1902.5	7325.1	5237.6	14178.7
8	先天性代謝異常	15886.9	1642.0	8596.8	8103.1	4884.6
9	血友病等血液疾患	2351.8	14579.8	40059.4	13542.8	14581.5
10	神経・筋疾患	1900.0	23043.9	43863.8	38941.5	32270.7
11	慢性消化器疾患	5048.5	10341.5	1379.0	13666.7	13183.9

注：10 歳未満の 7:糖尿病に該当する疾病は認められなかった。(レセプトに複数の小慢対象疾患名が記載されている場合は、主傷病を記載 (主傷病が複数存在する場合は先頭に近い位置に記載されているものを選択したため、慢性腎疾患等に計上される場合がある。)

表 6-1 2010 年 5 月診療分の年齢階級別小慢対象疾患を含む疾病大分類別受診者一人当たり点数
(女)

ICD10	傷病名	10 未満	10 代	20 代	30 代	40 代
A,B	感染症および寄生虫症	-	1675.3	21823.0	17954.0	5215.8
C,D48	新生物	1039.8	13975.0	6629.3	2517.9	4925.0
D50-89	血液および造血器の疾患ならびに免疫機構の障害	18194.2	4399.0	6631.7	18548.9	9030.6
E	内分泌,栄養および代謝疾患	14158.8	4131.9	5263.0	4465.6	5625.8
E00-07,15-35	内分泌障害 (再掲)	4515.7	4257.8	4880.8	3202.7	5309.2
E10-14	糖尿病 (再掲)	3436.5	9751.0	19543.3	7896.4	4043.4
E40-90	代謝障害 (再掲)	31959.2	1345.5	6314.5	10512.7	6652.7
F	精神および行動の障害	-	-	25966.0	-	51739.0
G	神経系の疾患	1713.3	12411.0	20235.3	14949.1	11397.1
I	循環器系の疾患	5584.2	14971.4	7885.2	8142.3	7929.0
J	呼吸器系の疾患	1132.8	2187.0	2124.4	2720.0	2815.2
K	消化器系の疾患	-	-	1248.0	-	1906.4
L	皮膚および皮下組織の疾患	-	-	289.0	-	-
M	筋骨格系および結合組織の疾患	17973.0	318.0	5603.2	6173.2	1931.1
N	尿路性器系の疾患	3535.8	4032.2	11253.2	12295.6	21772.8
P	周産期に発生した病態	358.0	-	-	-	-
Q	先天奇形,変形および染色体異常	13385.9	944.1	3894.5	6037.0	8651.7
S,T	損傷,中毒およびその他の外因の影響	420.0	-	-	438.0	644.2

注：H00-59 (眼および付属器の疾患)、H60-95 (耳および乳様突起の疾患)、O (妊娠,分娩および産じょく<褥>)、R (症状,徴候および異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの)、V,X,Y (傷病および死亡の外因)、Z (健康状態に影響をおよぼす要因および保健サービスの利用)、U (特殊目的用コード) に該当する疾病は認められなかった。

表 6-2 2010 年 5 月診療分の年齢階級別 11 告示疾患群別に分類した場合の受診者一人当たり点数
(女)

告示疾患群	傷病名	10 未満	10 代	20 代	30 代	40 代
1	悪性新生物	70.0	52493.3	10507.7	3286.3	9547.6
2	慢性腎疾患	4190.7	3718.9	9560.9	10585.9	20689.7
3	慢性呼吸器疾患	1131.3	2275.9	2431.3	2803.0	2967.0
4	慢性心疾患	12863.8	12541.5	7458.6	8266.2	8035.6
5	内分泌疾患	4755.9	3998.4	4700.5	3224.5	4818.1
6	膠原病	17973.0	318.0	5603.2	3269.3	1948.7
7	糖尿病	3436.5	9751.0	19543.3	7896.4	4043.4
8	先天性代謝異常	36475.1	1537.8	6254.6	10955.0	6559.0
9	血友病等血液疾患	11290.8	2298.2	11103.6	10423.1	7541.9
10	神経・筋疾患	2118.9	1761.7	17401.2	16757.4	38027.1
11	慢性消化器疾患	770.0	855.0	1069.0	-	1296.4

注：30 歳代の 11:慢性消化器疾患に該当する疾病は認められなかった。

表 7-1 2010年5月診療分の年齢階級別小慢対象疾患を含む疾病大分類別受診者一人当たり点数
(合計)

ICD10	傷病名	10未満	10代	20代	30代	40代
A,B	感染症および寄生虫症	-	1675.3	21823.0	17954.0	5215.8
C,D48	新生物	1039.8	13975.0	6629.3	2517.9	4925.0
D50-89	血液および造血器の疾患ならびに免疫機構の障害	18194.2	4399.0	6631.7	18548.9	9030.6
E	内分泌,栄養および代謝疾患	14158.8	4131.9	5263.0	4465.6	5625.8
E00-07,15-35	内分泌障害(再掲)	5321.6	4421.0	6016.9	4008.7	5703.6
E10-14	糖尿病(再掲)	3436.5	7134.8	10990.6	6301.1	11697.7
E40-90	代謝障害(再掲)	21086.9	1505.0	6387.1	9132.4	5671.3
F	精神および行動の障害	-	-	25966.0	-	51739.0
G	神経系の疾患	1713.3	12411.0	20235.3	14949.1	11397.1
I	循環器系の疾患	5584.2	14971.4	7885.2	8142.3	7929.0
J	呼吸器系の疾患	1132.8	2187.0	2124.4	2720.0	2815.2
K	消化器系の疾患	-	-	1248.0	-	1906.4
L	皮膚および皮下組織の疾患	-	-	289.0	-	-
M	筋骨格系および結合組織の疾患	17973.0	318.0	5603.2	6173.2	1931.1
N	尿路器系の疾患	3535.8	4032.2	11253.2	12295.6	21772.8
P	周産期に発生した病態	358.0	-	-	-	-
Q	先天奇形,変形および染色体異常	13385.9	944.1	3894.5	6037.0	8651.7
S,T	損傷,中毒およびその他の外因の影響	420.0	-	-	438.0	644.2

注：H00-59(眼および付属器の疾患)、H60-95(耳および乳様突起の疾患)、O(妊娠,分娩および産じょく<褥>)、R(症状,徴候および異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの)、V,X,Y(傷病および死亡の外因)、Z(健康状態に影響をおよぼす要因および保健サービスの利用)、U(特殊目的用コード)に該当する疾病は認められなかった。

表 7-2 2010年5月診療分の年齢階級別11告示疾患群別に分類した場合の受診者一人当たり点数
(合計)

告示疾患群	傷病名	10未満	10代	20代	30代	40代
1	悪性新生物	2105.5	35129.7	14666.5	3922.7	12626.1
2	慢性腎疾患	8701.5	3018.3	12334.0	13730.0	21576.3
3	慢性呼吸器疾患	1122.3	1656.5	2888.3	2553.9	3866.2
4	慢性心疾患	14013.3	9280.2	15331.8	12845.6	8022.8
5	内分泌疾患	5429.2	4150.6	5598.7	3973.4	5524.7
6	膠原病	14930.5	548.5	4911.5	4519.7	1734.9
7	糖尿病	3436.5	7134.8	10990.6	6301.1	11697.7
8	先天性代謝異常	24438.9	1611.7	7572.1	9386.5	5581.3
9	血友病等血液疾患	6821.3	7513.7	23669.3	11789.4	10771.4
10	神経・筋疾患	2039.3	16659.2	27986.3	26617.0	36457.2
11	慢性消化器疾患	3622.3	5598.3	1275.7	13666.7	9221.4

表 8 - 1 年齢階級別疾病小分類別受診者数 (上位 10 位まで) (男)

年齢階級	ICD10 コード	疾患名	受診者数
10 未満	J459	アレルギー性気管支炎	2,002
	M303	川崎病	27
	N059	硬化性糸球体腎炎	17
	E162	特発性低血糖症	15
	Q828	Bloom 症候群	14
	Q210	右室二腔症	12
	E039	甲状腺機能低下ミオパチー	11
	Q211	心房中隔欠損症	11
	E722	アルギニノコハク酸尿症	10
	E739	乳糖吸収不全症	10 未満
10・19 歳	J459	アレルギー性気管支炎	436
	N059	硬化性糸球体腎炎	21
	E230	下垂体機能低下症	17
	E722	アルギニノコハク酸尿症	14
	Q828	Bloom 症候群	10
	E162	特発性低血糖症	10 未満
	N133	水腎症	10 未満
	E343	ソマトメジン不応症	10 未満
	Q210	右室二腔症	10 未満
	E039	甲状腺機能低下ミオパチー	10 未満
	B279	慢性活動性 E B ウイルス感染(症)	10 未満
	20-29	J459	アレルギー性気管支炎
I499		ペースメーカー調律	15
I209		狭心症	11
E780		家族性高コレステロール血症(ヘテロ接合型、型不明も含む)	10
N189		慢性腎不全	10
E722		アルギニノコハク酸尿症	10 未満
E039		甲状腺機能低下ミオパチー	10 未満
G473		先天性中枢性低換気症候群	10 未満
N049		先天性ネフローゼ症候群	10 未満
E144		糖尿病性ニューロパチー	10 未満
30-39		J459	アレルギー性気管支炎
	E780	家族性高コレステロール血症(ヘテロ接合型、型不明も含む)	66
	G473	先天性中枢性低換気症候群	57
	I499	ペースメーカー調律	49
	I209	狭心症	32
	N189	慢性腎不全	31
	E039	甲状腺機能低下ミオパチー	30
	I509	慢性心不全	30
	E722	アルギニノコハク酸尿症	23
	I517	心筋炎後の心肥大	19
	40-49	J459	アレルギー性気管支炎
E780		家族性高コレステロール血症(ヘテロ接合型、型不明も含む)	245
I209		狭心症	115
I499		ペースメーカー調律	106
N189		慢性腎不全	91
E142		糖尿病性糸球体硬化症	80
E039		甲状腺機能低下ミオパチー	60
G473		先天性中枢性低換気症候群	54
I509		慢性心不全	44

(注) 集計結果が 10 未満となった疾病は、最小集計単位の原則から具体的な計数を記入していない。

表 8-2 年齢階級別疾病小分類別受診者数（上位 10 位まで）（女）

年齢階級	ICD10 コード	疾患名	受診者数
10 未満	J459	アレルギー性気管支炎	1,595
	N059	硬化性糸球体腎炎	25
	E162	特発性低血糖症	18
	E039	甲状腺機能低下ミオパチー	12
	E343	ソマトメジン不応症	11
	Q210	右室二腔症	10
	M303	川崎病	10 未満
	D70	遺伝性好中球減少症	10 未満
	E550	ビタミンD依存性くる病	10 未満
	E739	乳糖吸収不全症	10 未満
Q828	Bloom 症候群	10 未満	
10-19 歳	J459	アレルギー性気管支炎	316
	E283	原発性性腺機能低下症(女)	31
	E039	甲状腺機能低下ミオパチー	20
	N059	硬化性糸球体腎炎	19
	Q828	Bloom 症候群	18
	I499	ペースメーカー調律	14
	E050	甲状腺機能亢進症	10 未満
	D391	卵巣腫瘍	10 未満
	N028	IgA 腎症	10 未満
	N133	水腎症	10 未満
20-29	J459	アレルギー性気管支炎	190
	E283	原発性性腺機能低下症(女)	172
	D391	卵巣腫瘍	63
	E221	高プロラクチン血症	33
	E039	甲状腺機能低下ミオパチー	31
	E050	甲状腺機能亢進症	20
	I499	ペースメーカー調律	19
	Q828	Bloom 症候群	10
	E722	アルギニノコハク酸尿症	10 未満
	I209	狭心症	10 未満
30-39	J459	アレルギー性気管支炎	347
	E283	原発性性腺機能低下症(女)	268
	D391	卵巣腫瘍	96
	E039	甲状腺機能低下ミオパチー	88
	E221	高プロラクチン血症	75
	E780	家族性高コレステロール血症(ヘテロ接合型、型不明も含む)	42
	E050	甲状腺機能亢進症	33
	I499	ペースメーカー調律	32
	Q828	Bloom 症候群	31
	I209	狭心症	29
40-49	J459	アレルギー性気管支炎	371
	E283	原発性性腺機能低下症(女)	201
	E780	家族性高コレステロール血症(ヘテロ接合型、型不明も含む)	165
	E039	甲状腺機能低下ミオパチー	155
	D391	卵巣腫瘍	89
	I499	ペースメーカー調律	71
	E221	高プロラクチン血症	68
	N189	慢性腎不全	63
	I209	狭心症	54
	I509	慢性心不全	41

(注) 集計結果が 10 未満となった疾病は、最小集計単位の原則から具体的な計数を記入していない。

表8-3 年齢階級別疾病小分類別受診者数（上位10位まで）（合計）

年齢階級	ICD10コード	疾患名	受診者数
10未満	J459	アレルギー性気管支炎	3,597
	N059	硬化性糸球体腎炎	42
	M303	川崎病	36
	E162	特発性低血糖症	33
	E039	甲状腺機能低下ミオパチー	23
	Q210	右室二腔症	22
	Q828	Bloom 症候群	21
	E343	ソマトメジン不応症	19
	E722	アルギニノコハク酸尿症	16
	E739	乳糖吸収不全症	16
	Q211	心房中隔欠損症	16
10-19歳	J459	アレルギー性気管支炎	752
	N059	硬化性糸球体腎炎	40
	E283	原発性性腺機能低下症(女)	31
	Q828	Bloom 症候群	28
	E039	甲状腺機能低下ミオパチー	26
	E722	アルギニノコハク酸尿症	19
	I499	ペースメーカー調律	19
	E230	下垂体機能低下症	18
	N133	水腎症	13
	E343	ソマトメジン不応症	11
	20-29	J459	アレルギー性気管支炎
E283		原発性性腺機能低下症(女)	172
D391		卵巣腫瘍	63
E039		甲状腺機能低下ミオパチー	40
I499		ペースメーカー調律	34
E221		高プロラクチン血症	34
E050		甲状腺機能亢進症	21
I209		狭心症	18
E722		アルギニノコハク酸尿症	17
E780		家族性高コレステロール血症(ヘテロ接合型、型不明も含む)	15
N189		慢性腎不全	15
30-39	J459	アレルギー性気管支炎	607
	E283	原発性性腺機能低下症(女)	268
	E039	甲状腺機能低下ミオパチー	118
	E780	家族性高コレステロール血症(ヘテロ接合型、型不明も含む)	108
	D391	卵巣腫瘍	96
	E221	高プロラクチン血症	85
	I499	ペースメーカー調律	81
	I209	狭心症	61
	G473	先天性中枢性低換気症候群	61
	N189	慢性腎不全	46
	Q828	Bloom 症候群	46
40-49	J459	アレルギー性気管支炎	627
	E780	家族性高コレステロール血症(ヘテロ接合型、型不明も含む)	410
	E039	甲状腺機能低下ミオパチー	215
	E283	原発性性腺機能低下症(女)	201
	I499	ペースメーカー調律	177
	I209	狭心症	169
	N189	慢性腎不全	154
	E142	糖尿病性糸球体硬化症	103
	D391	卵巣腫瘍	89
	I509	慢性心不全	85

(注) 集計結果が10未満となった疾病は、最小集計単位の原則から具体的な計数を記入していない。

表 8 - 4 : 性・年齢階級別小分類別受診者数の推移 (10 歳未満で受診者数上位 10 位以内の疾患)

	ICD10	疾患名	10 未満	10 代	20 代	30 代	40 代
男	J459	アレルギー性気管支炎	2002	436	146	260	256
	M303	川崎病	27	症例なし	症例なし	症例なし	症例なし
	N059	硬化性糸球体腎炎	17	21	10 未満	10 未満	17
	E162	特発性低血糖症	15	10 未満	10 未満	10 未満	10 未満
	Q828	Bloom 症候群	14	10	10 未満	15	24
	Q210	右室二腔症	12	10 未満	10 未満	10 未満	10 未満
	E039	甲状腺機能低下ミオパチー	11	10 未満	10 未満	30	60
	Q211	心房中隔欠損症	11	症例なし	症例なし	10 未満	10 未満
	E722	アルギニノコハク酸尿症	10	14	10 未満	23	32
	E739	乳糖吸収不全症	10 未満	症例なし	症例なし	症例なし	10 未満
	J459	アレルギー性気管支炎	2002	436	146	260	256
女	J459	アレルギー性気管支炎	1595	316	190	347	371
	N059	硬化性糸球体腎炎	25	19	10 未満	10 未満	13
	E162	特発性低血糖症	18	10 未満	10 未満	10 未満	10 未満
	E039	甲状腺機能低下ミオパチー	12	20	31	88	155
	E343	ソマトメジン不応症	11	10 未満	症例なし	症例なし	症例なし
	Q210	右室二腔症	10	10 未満	10 未満	10 未満	10 未満
	M303	川崎病	10 未満	10 未満	症例なし	症例なし	症例なし
	E550	ビタミンD依存性くる病	10 未満	症例なし	症例なし	症例なし	症例なし
	D70	遺伝性好中球減少症	10 未満	10 未満	10 未満	13	10
	Q828	Bloom 症候群	10 未満	18	10	31	36
	J459	アレルギー性気管支炎	1595	316	190	347	371
合計	J459	アレルギー性気管支炎	3597	752	336	607	627
	N059	硬化性糸球体腎炎	42	40	10 未満	14	30
	M303	川崎病	36	10 未満	症例なし	症例なし	症例なし
	E162	特発性低血糖症	33	10 未満	10 未満	11	11
	E039	甲状腺機能低下ミオパチー	23	26	40	118	215
	Q210	右室二腔症	22	10 未満	10 未満	10	10 未満
	Q828	Bloom 症候群	21	28	13	46	60
	E343	ソマトメジン不応症	19	11	10 未満	10 未満	症例なし
	E739	乳糖吸収不全症	16	症例なし	症例なし	10 未満	10 未満
	E722	アルギニノコハク酸尿症	16	19	17	40	50

(注) 集計結果が 10 未満となった疾病は、最小集計単位の原則から具体的な計数を記入していない。

表 8-5 : 性・年齢階級別小分類別受診者数の推移 (10~19歳で受診者数上位 10 位以内の疾患)

	ICD10	疾患名	10 未満	10 代	20 代	30 代	40 代
男	J459	アレルギー性気管支炎	2002	436	146	260	256
	N059	硬化性糸球体腎炎	17	21	10 未満	10 未満	17
	E230	下垂体機能低下症	10 未満	17	10 未満	10 未満	10 未満
	E722	アルギニノコハク酸尿症	10	14	10 未満	23	32
	Q828	Bloom 症候群	14	10	10 未満	15	24
	E162	特発性低血糖症	15	10 未満	10 未満	10 未満	10 未満
	E343	ソマトメジン不応症	10 未満	10 未満	10 未満	10 未満	症例なし
	N133	水腎症	10 未満	10 未満	10 未満	10 未満	11
	E039	甲状腺機能低下ミオパチー	11	10 未満	10 未満	30	60
	Q210	右室二腔症	12	10 未満	10 未満	10 未満	10 未満
女	J459	アレルギー性気管支炎	1595	316	190	347	371
	E283	原発性性腺機能低下症(女)	症例なし	31	172	268	201
	E039	甲状腺機能低下ミオパチー	12	20	31	88	155
	N059	硬化性糸球体腎炎	25	19	10 未満	10 未満	13
	Q828	Bloom 症候群	10 未満	18	10	31	36
	I499	ペースメーカー調律	10 未満	14	19	32	71
	E050	甲状腺機能亢進症	10 未満	10 未満	20	33	40
	D391	卵巣腫瘍	症例なし	10 未満	63	96	89
	N133	水腎症	10 未満	10 未満	10 未満	10 未満	10 未満
	N028	IgA 腎症	10 未満	10 未満	10 未満	10 未満	10 未満
合計	J459	アレルギー性気管支炎	3597	752	336	607	627
	N059	硬化性糸球体腎炎	42	40	10 未満	14	30
	E283	原発性性腺機能低下症(女)	症例なし	31	172	268	201
	Q828	Bloom 症候群	21	28	13	46	60
	E039	甲状腺機能低下ミオパチー	23	26	40	118	215
	I499	ペースメーカー調律	10 未満	19	34	81	177
	E722	アルギニノコハク酸尿症	16	19	17	40	50
	E230	下垂体機能低下症	10 未満	18	10 未満	10 未満	10 未満
	N133	水腎症	10	13	10 未満	16	18
	E343	ソマトメジン不応症	19	11	10 未満	10 未満	症例なし

(注) 集計結果が 10 未満となった疾病は、最小集計単位の原則から具体的な計数を記入していない。

表 8-6 : 性・年齢階級別小分類別受診者数の推移 (20~29 歳で受診者数上位 10 位以内の疾患)

	ICD10	疾患名	10 未満	10 代	20 代	30 代	40 代
男	J459	アレルギー性気管支炎	2002	436	146	260	256
	I499	ペースメーカー調律	10 未満	10 未満	15	49	106
	I209	狭心症	症例なし	10 未満	11	32	115
	E780	家族性高コレステロール血症(ヘテロ接合型、型不明も含む)	症例なし	10 未満	10	66	245
	N189	慢性腎不全	10 未満	10 未満	10	31	91
	E039	甲状腺機能低下ミオパチー	11	10 未満	10 未満	30	60
	E722	アルギニノコハク酸尿症	10	14	10 未満	23	32
	G473	先天性中枢性低換気症候群	10 未満	10 未満	10 未満	57	54
	N049	先天性ネフローゼ症候群	10 未満	10 未満	10 未満	10 未満	14
	E144	糖尿病性ニューロパチー	症例なし	症例なし	10 未満	13	37
女	J459	アレルギー性気管支炎	1595	316	190	347	371
	E283	原発性性腺機能低下症(女)	症例なし	31	172	268	201
	D391	卵巣腫瘍	症例なし	10 未満	63	96	89
	E221	高プロラクチン血症	10 未満	10 未満	33	75	68
	E039	甲状腺機能低下ミオパチー	12	20	31	88	155
	E050	甲状腺機能亢進症	10 未満	10 未満	20	33	40
	I499	ペースメーカー調律	10 未満	14	19	32	71
	Q828	Bloom 症候群	10 未満	18	10	31	36
	E722	アルギニノコハク酸尿症	10 未満	10 未満	10 未満	17	18
	I209	狭心症	症例なし	10 未満	10 未満	29	54
合計	J459	アレルギー性気管支炎	3597	752	336	607	627
	E283	原発性性腺機能低下症(女)	症例なし	31	172	268	201
	D391	卵巣腫瘍	症例なし	10 未満	63	96	89
	E039	甲状腺機能低下ミオパチー	23	26	40	118	215
	E221	高プロラクチン血症	10 未満	10 未満	34	85	79
	I499	ペースメーカー調律	10 未満	19	34	81	177
	E050	甲状腺機能亢進症	10 未満	10	21	43	57
	I209	狭心症	症例なし	10 未満	18	61	169
	E722	アルギニノコハク酸尿症	16	19	17	40	50
	E780	家族性高コレステロール血症(ヘテロ接合型、型不明も含む)	症例なし	10 未満	15	108	410

(注) 集計結果が 10 未満となった疾病は、最小集計単位の原則から具体的な計数を記入していない。